

## 皇后様よりお言葉を頂いて

十八回生 寺澤 美代子

昨年千里山会誌十四号に寄稿して下さった藤原直美さんの記事から、過日、日経新聞(平成二十二年九月二十一日付朝刊)に掲載された「フィリピンを駆けた華」◇陸上選手南部敦子さんの足跡を追う◇の記事を、両陛下がご覧下さったことを知りました。

新聞記事の基となった他の資料もご覧頂ければ、敦子さんの功績について更にご理解を深めて頂けるかと願い、千里山会第十三回総会でのアルボレーダさんのスピーチ全文の資料などを宮内庁を通じてお送りしておりましたところ、皇后様より資料を受け取られた旨のご連絡を頂き、同時に、新聞記事をお読み頂いた折の感想などもお伺いすることができ、私自身大変ありがたく光栄に存じた次第でございました。お伝え頂いた趣旨は大筋次のような事柄でございました。

○更に、皇后様が、ご高齢の久子様のご健康を気遣われて、「くれぐれもお大切に」とのお気持ちをお伝えし、私から久子様にお伝えするようご依頼をお受けしましたこと。

早速、皇后様よりのご伝言を、久子様にお伝えし、喜んで頂いたのはもちろんのことでございます。

皇后様が、南部敦子さんの功績を讃え、日経新聞の記事に関心をお寄せ頂いたことは、千里山会としても大変にありがたく、嬉しいことと存じ、千里山会会員の皆様方ともこの光栄を分かち合いたいと願っております。

○一九五四年五月にマニラで開催された第2回アジア大会で活躍された南部敦子さんに関する当時の報道について、良くご記憶なさっておられたこと。新聞に掲載された敦子さんの写真は、とても良いお写真で、当時の報道についても改めて思い起こされたこと。

○皇后様は、南部敦子さん、アルボレーダさん、私共と同じ昭和九年のお生まれでおられるため、戦中戦後のご体験も、我々と同じくお持ちでいらっしゃるのです。日経新聞の記事の内容にも共感を覚えて下さり、反日感情の強かったマニラでの敦子さんの国際親善に果たされた功績を讃えて下さったこと。

○第2回アジア大会開催時のフィリピンの人々の反日感情の強い雰囲気の中にあつて、敦子さんの「優雅な美しさ、明るく誠実な振舞いが、フィリピンの人々の対日感情好転へのきっかけになった」という、当時大学生として観戦されていたアルボレーダさんのことばに対して、「南部敦子様が敦子さんを、ご立派にお育てになられたのでしよう。」とお言葉を添えて下さったこと。



## 南部久子様の 百寿を祝して

去る二月二十四日、南部久子様にはめでたく満百歳のお誕生日を迎えられました。

お祝いの席に同席されました山本道子様(千里山会十五回山本平八郎さん夫人)によれば、久子様は、孫の藤原直美さん初め、親しい方々と楽しい時を過ごされ、以前謡を教えておられた頃のお弟子さん方とご一緒に、謡曲も二曲謡われたそうです。

いつも変わらぬ前向きな姿勢に改めて敬服し、ますますお元気にとご健康を念じております。

なお、千里山会からは当日、百寿をお祝いして祝電をお送り致しましたので、ここに報告申し上げます。

寺澤 記



### 新春あいさつ

皆様方には、お元気で新春を迎えられたことと存じます

私は二月二十四日をもって満百歳を数えることとなりました

一世紀も生きるとは、私自身も驚いているところでございますが  
これからも健康に気をつけながら

ゆっくりと歩んでゆくつもりです

平成二十四年二月

南部 久子

## アルボレーダさんの奥様より

編集部

アマデオ・アルボレーダさんの奥様の真朱美様からメールを頂きましたのでその要約をご紹介します。

千里山会の会誌の件、すばらしい吉報でまるで雨模様の中のお花のようです。今朝、アマデオと「皇后様からご連絡頂かれたとは光栄なこと」と話しておりました。

私もアマデオから千里山会とのやりとりの話を最初に聞いたときから、(目に見えない糸とおっしゃられました)が、不思議な力を感じておりました。彼は本当に広く暖かい気持ちで南部久子様のお気持ちに向かわれていました。その後も何度か彼のそのような暖かい気持ちに触れ、私は大変感動し、そのような気持ちに促されたいと感じたことを覚えています。ときには、まるで彼の言葉は、南部敦子さんが彼の肉体を使って話されているように思えたのを覚えています。

南部久子様の絶望や喪失の痛みはいかばかりだったかと、私もしくしくと心が痛みましたが、彼の暖かさを必要としている方がいらつしやるのだと、不思議な力を感じたことを思い出します。

そしてまた、寺澤さんのような方に、彼の広く暖かい気持ちを理解していただくことができ、(私は彼の理解者として)大変嬉しく有難く、感謝いたしました。

皇后様も寺澤さんの中に皇后様が心に大切にしているつしやる「同じもの」に触れられたのだと確信しております。うまく説明できているかどうかわかりませんが、同じものを大切に、その大切にしているもののために自己を犠牲にして、大切なものを守ってこられた方々にめぐり逢うことによって、過去における自己の犠牲は報われるのではないのでしょうか。そして、そのような犠牲を払って一生懸命人生を歩んでこられた方と触れ合うことができるとき、人は感動するのではないのでしょうか。そして、その感動はかけがえのないものなのではないかと。

アマデオも私もそのような感動を寺澤さんからいただきました。心から感謝しております。

川上 真朱美

アルボレーダさんの千里山会第13回総会での南部敦子さんへの思いにあふれるスピーチと南部久子様との感激の対面は会誌13号に詳しく掲載しています。

又、日経新聞の記事は会誌14号にコピーを掲載しています。